

# 石神井高齢者相談センター 地域ケア個別会議 取組状況と課題

主催・日時・会場	参加者・数	テーマ	主な検討事項	主な検討結果	把握された課題
練馬ゆめの木支所 平成28年2月22日(月) 13:30~15:30 石神井庁舎会議室	民生委員 2名 NPO・ボランティア団体 4名 介護支援専門員 1名 介護事業所 5名 行政職員 1名 支所職員 3名 本所職員 2名 計 18名	安心して歩けるまちづくり～地域の課題と可能性を考える～	個別事例の検討を通して地域のネットワーク構築について検討する。	・地域における見守りの不足やつながりづらさがあるが、それぞれの取組を継続していくことの重要性が確認できた。 ・練馬ゆめの木支所は、石神井圏域と大泉圏域の2つの圏域の境にあるため、圏域を越えた情報共有とネットワーク構築を図ることができた。	・事例対象者の住所地が2圏域(石神井・大泉)の境界の場合に、関わる関係者の事例共有のあり方について、今後も検討が必要である。 ・複数の圏域に関するさらなる情報共有を図るため、今後も各圏域多職種協働での会議開催が望まれる。
関町支所 平成28年2月16日(火) 13:30~15:30 関保健相談所会議室	医療機関職員 3名 民生委員 1名 近隣住民 1名 ボランティア団体 1名 保健相談所職員 2名 清掃事務所職員 1名 介護事業所 1名 支所職員 2名 本所職員 3名 計 15名	認知症高齢者とその家族が安心して住み慣れた地域で暮らすために	本人の課題解決を図るための地域の支援体制について検討する。	・本人は他人の世話になりたくないと思っているが、穏やかな見守りの中で、本人や家族が支援を必要とした際のサインを見逃さないことについて、その必要性が確認された。 ・衣類の提供を行うなどの取組を通じて、地域や関係者の支えによって、認知症高齢者との信頼関係を継続的に気づいていく重要性について再確認できた。	・近隣住民の役割や支援方法について、関係者間での更なる検討が必要である。 ・本来は医療受診が必要であるが、本人の拒否が強いため、受診に繋げるための信頼関係構築が急務である。
上石神井支所 平成28年3月14日(月) 14:00~15:30 上石神井支所会議室	町会・自治会 1名 介護支援専門員 1名 介護事業所 3名 清掃ボランティア 1名 有料老人ホーム紹介業者 1名 不動産会社職員 1名 社会福祉協議会 1名 支所職員 3名 本所職員 2名 計 14名	認知症ひとり暮らし高齢者が住み慣れた地域から転居する難しさについて	認知症区高齢者に対し、個別ケースを挙げながら地域での支援体制について考える。	・ひとり暮らし高齢者の転居の難しさについて再認識できた。 ・住宅の大家や地域の不動産会社の方と、認知症ひとり暮らし高齢者の生活状況について、情報共有ができた。 ・引きこもりがちな高齢者に地域との関わりを持って頂くために、敬老館利用の重要性が再確認できた。 ・入浴が可能な敬老館において、銭湯と同様の役割が担われていることが確認できた。	・自治会や老人会、民生委員との連携による地域での見守り体制について、さらなる検討が必要である。 ・敬老館の事業(無料入浴等)について、地域の高齢者に向けたさらなる周知活動が必要である。
フローラ石神井公園支所 平成28年3月17日(木) 14:00~15:40 石神井庁舎会議室	医療機関職員 1名 民生委員 1名 住宅大家様 1名 介護支援専門員 1名 介護事業所 2名 清掃関係事業者 2名 清掃事務所職員 1名 支所職員 2名 本所職員 2名 計 13名	ひとり暮らし高齢者のゴミ、衛生問題について考える	室内にゴミが溜まっている、もしくは衛生的に問題のある環境で生活しているひとり暮らし高齢者に対し、地域でどのように支援していくか検討する。	・関係者間において、本人に関する情報共有と今後の課題や問題点が明確化されたとともに、チームとして連携して取り組む体制が構築できた。 ・本人は、最初サービスを受けることに抵抗があったが、少しずつ関係性を積み重ねていくことで、徐々に支援者の意見、提案に対しても耳を傾けてくれるようになったことが確認できた。	・未だに埋もれている同様事例を把握していくために、地域の見守りネットワークづくりが急務である。 ・ゴミや衛生上問題のあるケースが確認できた際に、それらを地域で支え合うための仕組み作りが必要である。
第二光陽苑支所 平成28年3月25日(金) 13:30-14:30 第二光陽苑介護者教室	ご本人様 民生委員 1名 介護支援専門員 2名 介護事業所 1名 支所職員 2名 本所職員 2名 計 9名	ひとり暮らし高齢者が安全・安心して楽しく外出するために	事例対象者の「地域のスーパーに買い物に行きたい」という意向から、地域で人の集まるスーパーや商店街での買い物についての課題や支援方法、必要なネットワークについて検討する。	・バスを利用した買い物、商店街の利用、スーパーの利用の3つ選択肢から、ご本人様の「スーパーに行きたい」という意向について関係者間で協議し、具体的な支援内容を抽出することができた。 ・関係者間で地域課題および社会資源について共通認識を持つことができた。	・自宅での防災対策や緊急時のSOS手段、金銭管理等について、引き続き関係者間での検討が必要である。 ・ひとり暮らし高齢者の買い物等日常生活における困りごとについて、今後もさらなる課題抽出が必要である。

<p>富士見台支所 平成28年2月26日(金) 14:00~15:30 練馬区立生涯学習セン ター分館</p>	<p>民生委員 1名 介護支援専門員 2名 介護事業所 1名 配食事業所 1名 生活保護担当職員 1名 生活支援員 1名 支所職員 3名 本所職員 2名 計 12名</p>	<p>「介護保険サービスに 馴染みづらい、ひとり 暮らしの高齢者」への 支援について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の見守り体制や 支援ネットワークの構 築について検討する。</li> <li>・支援ネットワークが 他の高齢者支援にも活 かせるような仕組みづ くりについて検討す る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例対象者の強みやリスクを関係者間で情報共有することができた。</li> <li>・リスクとなることに対する手立ての実践方法や、その手立てが他の同様の課題を持った高齢者にも共有できるような仕組みになっているか検証し、地域課題抽出や資源づくりに繋げるための話し合いができた。</li> <li>・支援者側が予後予測を立て、本人の現状、今後にみられる症状や行動を確認することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスに繋がるまでの間の、ゆるやかな見守り体制について更なる検討が必要である。</li> <li>・見守りに関わる社会資源の不足（傾聴ボランティア等の介護サービスに繋がるまでの寄り添う支援者）</li> </ul>
<p>石神井支所 平成28年2月26日(金) 10:00~12:00 石神井庁舎会議室</p>	<p>民生委員 2名 町会・自治会 1名 老人クラブ 1名 介護支援専門員 1名 介護事業所 3名 理学療法士 1名 保健相談所職員 1名 生活支援員 1名 支所職員 3名 本所職員 2名 計 16名</p>	<p>困難な課題を抱えたひ と暮らし高齢者が地 域で主体的に生活をす るために</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が安心して暮 らし続けることができ る地域づくりについて 検討する。</li> <li>・関係者間のネット ワークの構築について 検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が参加できる社会資源が地域に様々あることが把握できた。</li> <li>・関係者間での情報共有およびそれぞれの役割分担の確認やネットワークの構築について意見交換ができた。</li> <li>・介護サービスのみでなく老人会や敬老館、町会主催の集会の場に本人の参加を促すなど、シニアネットワークへの参加や仲間づくりを行うことで、本人が主体性を持てる支援の必要性が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の様々なニーズに対応可能な、新たな社会資源の開発が必要である。</li> <li>・高齢者が介護状態になった時に、切れ目ない支援を行うため、地域全体で支援を行う体制づくりが必要である。</li> </ul>